

第 5 話 出血性脳卒中(脳出血、くも膜下出血)

脳卒中は以下の二つに大別されます。

- ・血管が詰まって起こる →「脳梗塞」
- ・血管が破れて起こる →「脳出血」と「くも膜下出血」
(併せて、出血性脳卒中といいます)

これまでは「脳梗塞」について多くお話してきました。

今回は血管が破れる「出血性脳卒中」についてお話します。

①「脳出血」と「くも膜下出血」の違い、ご存知ですか？

脳出血 	〈脳の中の出血〉 脳の中を走る細い血管がやぶれて、血液の固まり(血腫)を作る病気です。 ※脳内出血と表現される場合もあります。 出血が小さい場合は、薬で治療します。 出血が大きい場合は、手術で取り除きます。
くも膜下出血 	〈脳の表面の出血〉 脳の表面の太い血管にできたコブ(脳動脈瘤)が破れて、脳表に出血する病気です(第 8 話参照)。 脳をゴムボールに例えると、その表面にトマトジュースを一気にブチマけたイメージです。 動脈瘤の破れた部位、一旦はすぐに塞がります。 しかし、数日以内に再出血が起こりやすく、それを防ぐ目的で手術治療が行われます。

② 出血性脳卒中、発症した場合の予後は？

脳梗塞に比べて重篤な病気です。

脳出血では約50%の方で介護を要する状態となり、くも膜下出血では死亡率が約30%とも報告されています。

③ 出血性脳卒中の症状、「脳梗塞」との違いは？



脳梗塞	半身の運動麻痺や言語障害などが出現 発症時に 頭痛はまずありません
脳出血	頭痛 、半身の運動麻痺や言語障害、意識障害が出現、急速に進行することがあります
くも膜下出血	突然の激しい頭痛と吐き気 で発症。重篤な場合は、発症直後に意識障害、呼吸停止

④ 出血性脳卒中、発症の前触れがありますか？

脳梗塞では、20～25%に前触れや警告発作があります。

しかし出血性脳卒中では、ほとんどが突然に発症します。

⑤ では出血性脳卒中、防ぐ手立ては何もないのでしょうか？

MRI 検査によって、「かくれ脳出血」や「脳動脈瘤」など、危険な要因を見つけることができます。
その意義などについては、〈第6話〉、〈第8話〉でお話させていただきます。

